

校訓：高く 明るく たくましく 入間野ルネサンス 継承と発展

学校だより

狭山市立入間野中学校

平成30年10月5日

校長 尾澤 栄一

学校教育目標：志高く 心豊かに 自らを鍛える生徒

実りの秋 様々な成功体験を積み自己の可能性を伸ばす入間野中生

先日の体育祭では、雨天で順延開催にも関わらず、心配された天候にも恵まれ、多数のご来賓、保護者、地域の方々にご来場いただき誠にありがとうございました。体育祭は学校行事の中でも卒業式に次ぐ行事であり日頃の教育活動の真価が問われる行事です。ここ数年、応援合戦である各クラスの趣向を凝らしたダンスも本校体育祭のメインプログラムとなり、学年が進むにつれてまとまりのある演技は、多くの来場者を魅了しました。その他の競技でも勝敗に関係なく、互いのクラスがそれぞれの成果を賞賛し合う姿は、多くの生徒が学校生活を謳歌していることの証でもあり見ていて微笑ましかぎりでした。来年度も競う者、演じる者、観る者が共に喜びを分かち合い、地域の方とともに誇りに思える体育祭となることを願っています。



さて、実りの秋となりました。入間野ルネサンス～継承と発展～を掲げた2年目の秋も生徒達は多方面で活躍し、今後の成長が楽しみとなりました。過日行われた市の英語暗唱弁論大会では、本校生徒3人(2年田中琢也君 3年生和涼々さん 宮澤眞里さん)が最高位を受賞し、中でも3年生の宮澤眞里さんは、県大会へ出場することとなりました。また新人体育大会でも先輩の意を継いで野球部、陸上部、剣道部、男子卓球部、女子卓球部、女子バスケットボール部が県大会へ駒を進めたことは多くの生徒達の自信へととなりました。さらに今学期は、音楽会、職場体験等様々な体験や見聞を通じて生徒達は心身共に大きく成長していきます。そして11月には、生徒会主催の感謝の集いが開催され、生徒自身による手作りの行事が自尊感情の高揚へとつながることを期待しています。実りの秋、色づく樹木の葉の移り変わりとともに様々な行事を通して、生徒達の心の成長が期待される2学期です。そして様々な成功体験を積み重ねることが学習への意欲へとつながり、学力の向上の糧となることに期待をします。今後も多くの行事にご来場いただき生徒達の活躍にご声援を送っていただけたらと思います。

入間野中の学力は、、、 県学力・学習状況調査結果報告

今年度も4月に埼玉県と全国の学力学習状況調査が行われました。今月は県内の小中学校小4から中3までの児童生徒を対象とした埼玉県学力学習状況調査についての結果をお伝えします。この調査は「一人一人の学力がどう伸びているか」という学力の伸びが把握できます。個票につきましては、すでに生徒に返却をしています。昨年との学力の伸びをご確認ください。本校では、両調査の結果を踏まえ、授業改善を図ると共に指導の充実に努めていきます。

県学力学習状況調査実施日 平成30年4月12日

		各学年・教科の正答率		
		本校	県	県との差
1年	国語	53.9	55.2	-1.3
	数学	59.6	58.1	1.5
2年	国語	57.9	55.6	2.3
	数学	53.2	51.0	2.2
	英語	69.9	65.4	4.5
3年	国語	64.4	61.7	2.7
	数学	62.3	59.1	3.2
	英語	60.0	58.5	1.5

埼玉県学力学習状況調査 分析のまとめ

	結果よりわかること	課題	今後の取り組み	
国語科	1年	・狭山市の平均に近いが数値としては少し低い	・読解力(読むこと) ・記述(書くこと)	・作文課題を引き続き行う ・ワークを活用し問題演習を行う ・読解と文法に力を入れていく。
	2年	・平均よりも高い	・話す、聞くの設問 ・文法	・ワークの活用から文法の復習を行う。 ・定期テストでも何度も行い意識付けをする。
	3年	・全体的に県平均も全国平均も越えている	・設問によっては、慣用句や推敲など少し低い部分もある。	・今まで通り行う中で、補充が必要な部分をしっかり見極めて補っていく。
	質問紙	・1年生は問題演習の時間は多かったが話し合う活動は少なかった。 ・3学年を通じて1ヶ月の読書量は平均より多い。	・課題解決に向けての取り組みや友達の考えを聞く活動が少なかった。	・授業内で課題を意識させ、話し合いの中で解決していくようにしていく。
数学科	1年	・平均正答率は県平均を上回った。しかし、分数の乗除の正答率は低く、小数と分数が混ざった計算になると正答率はさらに下がる。	・通分と約分の区別ができていないこと。 ・小数を分数に変換することが不得手であること。	・毎授業で実施している小テストには分数の加減、乗除が数多く出題されている。全体の習熟度を確認し復習を取り入れていく。
	2年	・平均正答率は県平均を上回った。しかし図形と他分野との融合問題の正答率が低い。	・正しく計算する力があっても公式を忘れてしまったり公式を間違えておぼえてしまったりしている。	・毎授業で実施している小テストには、今までに習ってきた面積公式を使う問題が多数出題されている。クラス全体で確認することで定着させていく。
	3年	・平均正答率は県平均を上回った。しかし図形の証明問題等の記述問題で正答率が低い	・平行四辺形の性質など出題頻度が低いものに関しては知識の定着度が低い。	・問題演習の中では、性質の一つを答えることが多い。残りの性質についても授業でふれ、知識に偏りのないように指導していく。
	質問紙	・自分の考えを发表或し、ワークに取り組んだりしたことは県平均を上回っている。しかし、グループ活動では、みんなで考えを出し合うという部分が県平均を下回っている。	・グループで活動するときに数学が得意な生徒だけ活躍するような授業展開になっている。	・グループの一人一人が考え、意見を出せるような発問になるように工夫をして授業を展開する。
英語科	2年	・「書くこと」に関し、学校で対策したものが効果を発揮したため高い。空欄解答が少ない。	・「自分の考えに関する説明に基づき英語で主張を明確に書く」の無解答率をさらに下げたい。 ・「場所を尋ねる質問に対する答えを選ぶ」は平均以下である。	・授業の中の会話活動等で必ず自分の意見を言う場面を設定する。
	3年	・全体的に正答率が低い。 ・理解の能力が県平均よりも高いが、狭山市よりも低い。	・同じ生徒の無解答が多い。 ・読み取りが徐々に早くなっているが正答率は低い。	・選択問題等全解答させるように働きかけるとともに普段の授業でも配慮する。 ・長文読解対策を実施する。
	質問紙	・「先生や家の人に褒められたい」「学校の友達に認められたい」という項目が高い。「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦する」という項目が低い。	・難しい問題をあきらめる傾向にある。 ・問題の解答をする工夫が出来ない。	・段階的にレベルに合わせた指導と振り返りを行うことで学習に向かう意欲を高める。

埼玉県学力学習状況調査・生徒質問紙（生活等） 分析のまとめ

	結果よりわかること	課題	今後の取り組み
1年	Aあいさつの、できる群(「できる」「どちらかといえばできる」)の割合が80%を下回る。 B話を聞き発表する、できる群の割合が80%を下回る。 Cテレビゲーム携帯電話のルールを家の人と決めている人の割合が全国、県平均を下回る。	Aあいさつの習慣化 B言語活動の充実 Cテレビゲーム・携帯電話(スマホ)の家庭内のルールの確立	A部活等で先輩が見本を見せる。教員が率先して挨拶を投げかける。生徒会活動の一環である挨拶運動の活用する。 B各教科の授業内での言語活動を充実させる。また教科だけではなく、様々な場面で発表の場を設け、自己肯定感の高揚を図る。 C講演会など、情報モラル教育を充実させる。保護者への啓発活動を促進する。
2年	A返事の、できる群の割合が全国、県平均を下回る。 B話を聞き発表するの、できる群の割合が80%を下回る。	A返事の習慣化 B言語活動の充実	A返事の徹底、各教科、学校全体で歩調を合わせた取り組みを実施する。 B各教科の授業での言語活動を充実させる。各教科だけでなく、さまざまな場面で発表の場を設ける。基礎基本の充実。自己肯定感の高揚を図る。
3年	A話を聞き発表するの、できる群の割合が80%を下回る。 B携帯電話のルールを家の人と決めている人の割合が全国、県平均を下回る。	A言語活動の充実 B携帯電話の家庭内ルールの確立	A各教科の授業内での言語活動を充実させる。各教科だけでなく、さまざまな場面で発表の場を設ける。基礎基本の充実 自己肯定感の高揚を図る。 B講演会など情報教育の充実。保護者参加を促す。保護者会等で啓発する。

◆学力の向上は、学校教育の目指す目標の一つでもあり、大きくとらえるならば国民の学力レベルがどの程度かということは、我が国の将来の在り方に大きく関わってくることです。本市でも学力向上を最重要課題として掲げ、さやまっ子チャレンジスクールや夏季休業中の集中講座等が開設され、本校生徒の参加も徐々に増えてきました。また平成33年度からは新しい学習指導要領が完全実施されます。それに伴って大学等の入試の在り方も変わり、学力の在り方や目指すべき目標が「伝統的な学力」から「問題解決型」の能力へと転換し、日常生活や仕事において、日々出会うであろう「課題」を解決するために必要な思考力・判断力等を主とする力が求められていきます。また学校教育では教科教育以外の領域である特別活動、特別な教科道徳、学校行事や体験活動等の充実など知・徳・体のバランスのとれた人間形成を確立するため様々な教育活動が行われています。本校でも生徒会活動、部活動等の充実を図り、教科教育で得た知識や技能の他に子供たちが自ら課題を解決する力を育てているところです。

また、県、全国学力調査では、生徒質問紙により生活面での調査も行っています。本校の結果を顧みますと、自己肯定感や規範意識の高揚、望ましい集団の在り方や人間関係の醸成等が微力ながら向上してきています。学力向上の基本は、日々の授業の充実ですが、その基盤となることは、豊かな心や



生活習慣の向上です。学力調査の数値のみにとらわれずに挨拶も返事も礼儀も学力として捉えて今後も教育活動を展開していきたいと思っております。ご家庭でも学習と生活の調和のとれた

ご支援をお願いいたします。

次号は、全国学テ、体力テストの結果を報告します。